



### 「お母さん…おかえり！」～やっぱり我が家がいい～

Yさん 82歳。今年の4月に下血があり、救急搬送された。その時に病気がみつき手術をしてストーマ（手術によっておなかに新しく造られた、便の排泄口の人工肛門）を造設した。

その後、リハビリ目的で転院するが、食べ物がうまく食べれず、誤嚥性肺炎を起こしやすいためCVポート（首や鎖骨の下の血管からカテーテルを入れ、胸の皮膚の下に埋め込んで薬剤を投与する）を造設し、カロリーの高い点滴を毎日24時間投与することとなった。

病状が安定したころ、娘は「在宅療養させたい」と相談があり、今月より看護小規模多機能型居宅介護 ケアホーム希望の登録となった。退院後は泊まりサービスを利用しながら、今後どのようなサービスが必要なのかを検討、医療処置の方法や介護の方法を娘に指導していくこととした。医療処置方法は人工肛門のストーマパウチ交換の方法や点滴の交換方法、注意点等を看護師が説明した。退院前に病院からきちんと指導を受けていた娘はスムーズにマスターできた。介護についても、おむつ交換や口腔ケア、体位変換、内服方法もすぐに習得、行うことができた。

救急搬送され、入院してから約4ヶ月ぶりに我が家に帰宅することができたYさん。自宅では家族が「お母さん、おかえり！」との言葉に満面の笑みで応え、幸せそうであった。

「やっぱり家がいい！」どんなに良い手厚いサービスを受けていたとしても、家に勝るものはないと痛感する瞬間である。

介護をする娘は就労しているが、新型コロナウイルスによる在宅ワークでもあり、介護力もあったため、在宅療養生活への受け入れ態勢が充分であった。今後のサービスについては、娘の仕事の調整により「泊まり」サービスと「訪問看護」による体調管理や医療処置等を行い、訪問診療でフォローしていくこととなる。



### 誤嚥とは…？

通常、気管には「<sup>こうとうがい</sup>喉頭蓋」という器官のおかげで飲食物や唾液が侵入しない仕組みになっています。気管は普段、息をするために開いていますが、気管の近くを飲食物が通る瞬間だけ、喉頭蓋が高速技で蓋をします。しかし、蓋のタイミングがずれて、気管に入ってしまうことがあります。これが「誤嚥」です。



### ムセない誤嚥に注意！

誤嚥してムセたり、咳込んだりする誤嚥を「<sup>けんせいごえん</sup>顕性誤嚥」と言います。一方、ムセない誤嚥を「<sup>ふけんせい</sup>不顕性誤嚥」と言い、サインがないため、気づきにくいのが特徴です。そのため、知らないうちに肺炎になってしまうこともあります。ムセ以外の誤嚥のサインを見逃さないようにしましょう。

### ムセ以外の誤嚥のサイン

- ・飲込んだ後、湿ったガラガラ声になる
- ・痰が増える
- ・風邪症状がないのに頻繁に熱が出る



私たち  
まだまだ お互い 元気に  
頑張りましょうね！



# 祝敬老会

料理も  
美味しかったし  
今年も 皆と楽しい  
敬老会 だったよ  
ありがとう！



おが  
どうぶ

いつも 素敵な 笑顔を

コロナ感染対策のため2日間に分けて行いました

ありがとう！



おう～  
Delicious!  
美味しい～

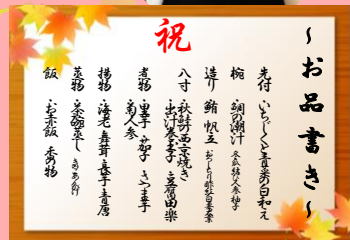


敬老会御祝御膳



調理師

ささやかですが敬老のお祝いの  
お食事をご用意致しました



## 調布市 認知症サポート月間 ～知ろう・語ろう・考えよう～

「認知症だからこそ地域で支える」  
～小多機・看多機を知ろう～

9月21日の「世界アルツハイマーデー」にちなみ、調布市では9月を「認知症サポート月間」として令和3年度から様々な啓発活動や講座を実施しています。

認知症の方の6割が在宅生活を送る中、調布市では地域で暮らす認知症の方にさりげない支援の手が行き届く「認知症にやさしいまちづくり」を目指しています。

「認知症サポート月間」では、認知症や認知症予防について学び、認知症当事者、家族、認知症支援者の声を聴き、認知症への理解を深め、認知症になっても暮らしやすいまちづくりについて考えるきっかけづくりとして、調布市内各所で認知症に関するイベントや講座が開催されました。ケアホーム希望 管理者の金沢も看護小規模多機能型居宅介護事業所の紹介、地域での取り組みについて9月20日に講演してきました。

主催：地域包括支援センター仙川

TEL：03-5314-0030

会場：調布メモリード（菊野台1-10-2）

TEL：042-483-0983

